

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成20年11月20日 (2008.11.20)

【公表番号】特表2003-523930(P2003-523930A)

【公表日】平成15年8月12日 (2003.8.12)

【出願番号】特願2000-574498(P2000-574498)

【国際特許分類】

A 6 1 K 8/30 (2006.01)

A 6 1 K 8/00 (2006.01)

A 6 1 Q 5/02 (2006.01)

A 6 1 Q 5/12 (2006.01)

A 6 1 Q 5/10 (2006.01)

A 6 1 Q 19/10 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 7/00 C

A 6 1 K 7/075

A 6 1 K 7/08

A 6 1 K 7/13

A 6 1 K 7/50

【誤訳訂正書】

【提出日】平成20年9月30日 (2008.9.30)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】特許請求の範囲

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

アルキドアミン基と、対イオンとから成り、前記アルキドアミン基が、脂肪酸のカルボン酸部と、ジエチレントリアミン (DETA) とトリエチレンテトラミン (TETA) とから成るグループから選択された橋かけ分子に含まれる窒素の少なくとも 2 つとの反応により得られる第四級ジアルキルアミドアミンにおいて、ヒア油に含まれる少なくとも C-20 脂肪酸成分を少なくとも 30 重量%含むジアルキル基を有することを特徴とする第四級ジアルキルアミドアミン。

【請求項 2】

前記ジアルキル基が、200 以下のヨウ素価を有することを特徴とする請求項 1 に記載の第四級ジアルキルアミドアミン。

【請求項 3】

前記ジアルキル基は、150 以下のヨウ素価を有することを特徴とする請求項 2 に記載の第四級ジアルキルアミドアミン。

【請求項 4】

アミン窒素に結合した少なくとも 1 つの一般に電気的に陰性の基を更に備えることを特徴とする請求項 1 乃至 3 のいずれかに記載の第四級ジアルキルアミドアミン。

【請求項 5】

前記少なくとも 1 つの一般に電気的に陰性の基は、ヒドロキシ、アルデヒド、酸、アルコキシ及びポリアルコキシ基よりなる群から選ばれることを特徴とする請求項 4 に記載の第四級ジアルキルアミドアミン。

【請求項 6】

シャンプー、コンディショナー、液体ソープ、顔またはボディー洗浄剤及びヘア着色料よりなる群から選ばれる基体と、0.1乃至10活性度%の第四級ジアルキルアミドアミンを備える身体保護製品であって、前記第四級ジアルキルアミドアミンは、アルキドアミン基と、対イオンとから成り、前記アルキドアミン基が、脂肪酸のカルボン酸部と、ジエチレントリアミン（DETA）とトリエチレンテトラミン（TETA）とから成るグループから選択された橋かけ分子に含まれる窒素の少なくとも2つとの反応により得られ、少なくともC-20脂肪酸成分を少なくとも30重量%含むジアルキル基を有することを特徴とする身体保護製品。

【請求項7】

前記ジアルキル基は、200以下のヨウ素価を有することを特徴とする請求項6に記載の身体保護製品。

【請求項 8】

前記ジアルキル基は、トリグリセリド、ワックスまたはヒア油、たら肝油、にしん油、メンヘーデン油、からし種油、ピルチャード油、ヒア油、さけ油、いわし油、メドウフォーム油及びさめ肝油よりなる群から選ばれるオイルを含む脂肪酸から誘導されることを特徴とする請求項6に記載の身体保護製品。

【請求項 9】

前記ジアルキル基は、エイコセン酸、エイコサペンタエン酸、エルカ酸、ドコサペンタエン酸、ドコサヘキサエン酸、エイコサテトラエン酸、テトラコサン酸、アラキジン酸、ベヘミン酸、ガドレイン酸、アラカドン酸よりなる群から選ばれる脂肪酸から得られることを特徴とする請求項6に記載の身体保護製品。

【請求項 10】

前記ジアルキルクワットは、少なくとも1つのアミン窒素に結合する一般に電氣的に陰性の基を有することを特徴とする請求項6に記載の身体保護製品。

【請求項 1 1】

前記少なくとも1つの一般に電氣的に陰性の基は、ヒドロキシ、アルデヒド、酸、アルコキシ及びポリアルコキシ基よりなる群から選ばれることを特徴とする請求項10に記載の身体保護製品。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 0 4

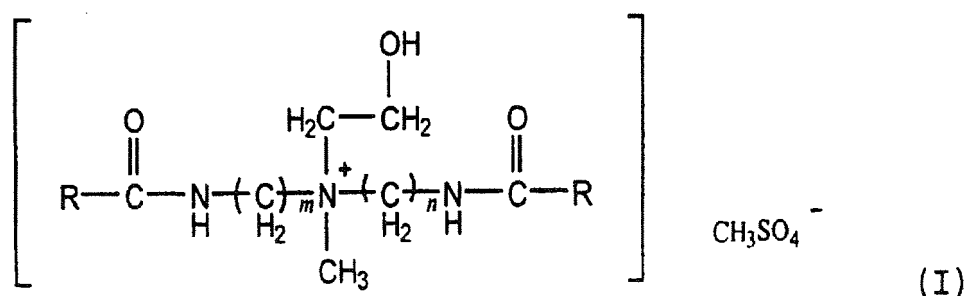
【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【 0 0 0 4 】

本発明に係るクワットは、先行技術のジアルキルクワットとは異なり、脂肪酸のカルボン酸部と、例えば、D E T Aのような橋かけ(bridging)分子に含まれる窒素の少なくとも2つとの反応により得られるアミドアミン基を含む。

【式 1】



【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】 0 0 1 3

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 1 3】

本発明に係るジアルキルモノクワッツは、トリグリセリドのような上記の脂肪酸の一つを取り、これをジアルキルアミドアミンを形成することのできる化合物と反応させることによりつくることができる。例えば、トリグリセリドが使用される場合には、2モルのトリグリセリドを、例えば、3モルのジエチレントリアミン（DETA）と反応させて3モルの脂肪アミドアミンを形成する。得られた第二アミドアミンを、次いで、例えば、酸化エチレンのような酸化アルキレンに対して反応させて、第二アミンを、アルコール基を含む第三アミンに変えることができる。次に、この材料は、例えば $(CH_3)_2SO_4$ との反応により 第四級化 されて、クワットを形成する。第四級アミン化合物を形成するいずれの公知の技術も、使用することができる。このように形成されたクワットは、一般に、ハロゲン化物、硫酸塩、磷酸塩などのような対イオンを有する。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 1 5

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 1 5】

更に、第1、第2または第3の位置にある窒素もまた、第四級化する（quaternize）ことができるのである（アミン窒素）。残る2つの窒素は、アルキル鎖に結合される（アミド窒素）。従って、第二の窒素クワットを中心に対称なジアルキルクワットをつくることができ、あるいは、末端窒素の一つは、アルキル基と結合した残る2つの窒素で 第四級化 することができる。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 1 6

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0 0 1 6】

更にまた、第四級化された窒素即ち第四化窒素は、本技術分野において公知のように多数の第四化を行う基を有することができる。例えば、上記のように、第四化された窒素即ち 第四級窒素は、その置換基として、エトキシ基及びメトキシ基を有することができる。式Iを参照されたい。2つのエトキシ基もまた、使用することができる。例えば、得られた材料を、コンディショナとは異なるシャンプーに使用する場合のように、得られたクワットを、陰イオン界面活性剤と適合させることが重要である場合には、成分の少なくとも一つは、第四級窒素即ちアミン窒素に結合される、例えば、ヒドロキシ、アルデヒド、酸、その他の一般に電氣的に陰性の(electro-negative)基を含むことが重要である。これらには、エトキシ基、プロポキシ基、アルデヒド、酸、ポリエチオキシ基（ポリアルコキシ基）などが含まれる。実際に、式Iについて説明すると、エトキシ基は、2乃至20エトキシ単位のポリエチオキシ基と置換することができる。陰イオン性界面活性剤の適合性は、クワットを界面活性剤と混合したときに、沈殿または濁りのない清澄溶液により測定することができる。当然にして、陰イオン性界面活性剤の適合性が必要とされない場合には、例えば、2つのメチル基、1つのメチル及び1つのエチル基などのような2つのアルキル基を、代わりに使用することができる。

【誤訳訂正 6】

【訂正対象書類名】 明細書

【訂正対象項目名】 0 0 1 9

【訂正方法】 変更

【訂正の内容】

【0019】

合成の実施例

これらのクワットは、一般に、窒素源、真空源、加熱及び冷却装置を備えた攪拌圧力容器において、1モル等量の特許請求の範囲に記載の酸と1.5モル等量のジエチレントリアミン（DETA）とを加えることにより、つくることができる。次いで、容器を、130乃至200℃の温度に、3乃至6時間加熱する。試料を、反応の進行の際に取り出し、当業者に公知であるようにして、エステルピークの消滅に関してFTIRを介してチェックを行う。無視しうるエステルのピークが得られたときに、製品を、90乃至130℃の温度に冷却するとともに、1モル等量以上の酸化エチレンを加える。酸化エチレンは、容器の圧力が初期の値に下がるまで、反応に供するようにすべきである。酸化エチレンの添加後の製品は、90乃至100%の、最も好ましくは95乃至100%の第3アミン含量を有するようにすべきである。バッチは、50乃至100℃に冷却し、次いで、プロピレングリコール、ブチレングリコール、イソプロピルアルコールなどの存在下において、硫酸ジメチル、塩化メチル、塩化ベンゼンなど、あるいは当業者に広く知られているその他の第四級化剤を用いて第四級化に供するようにすべきである。